

【株式会社ロッテ】食品ロス削減・リサイクルに向けた取組

＜商慣習の見直し（納品期限緩和 又は 賞味期限表示大括り化の取組）＞

- 賞味期間180日以上菓子において、年月表示化を行っている。
- 製品のリニューアルや配合、包装仕様変更などの際に賞味期限の再確認を行い、延長可能となった製品については随時切り替えを行っている。

＜食品ロス削減・食品リサイクルの取組＞

- AIを活用した需要予測に向け検証スタートしている。
- 賞味期限が近くなった製品をフードバンクなどに寄贈している。
- 容器包装されたまま受け入れ可能な設備を持つ施設と協力して、飼料化を推進している。

AI需要予測検証

○ AIを活用した需要予測の実現に向けた検証をスタートさせました。夏季のアイス販売予測の誤差率を低減することに成功したため、今後は適応範囲を拡大していきます。需要と供給のズレを最小化することで、過剰在庫や返品によって生じるFLWの削減を推進しています。

アイスクリーム既存製品の販売予測検証結果



フードバンクへの寄付

○主に、NPO法人であるフードバンク団体に対して自社製品寄贈の協力を行っています。この取り組みは、食の有効活用と共に、「おいしい」「たのしい」という食の喜びを伝える一助になると考えています。

飼料化

○ 廃棄物の飼料化は価値の高い利用方法ですが、過剰在庫や返品された製品は容器包装が課題となり、飼料化がなかなか進みませんでした。2021年度から包装されたまま受け入れ可能な設備を持つ施設と協力して、飼料化を推進しています。

2028年度までに菓子・アイス事業においてFLW(食品ロスおよび食品廃棄物)発生量対販売量原単位を2019年比で50%以上削減(ESG中期目標)

